

お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第8弾をお届けします。

(シリーズ担当：R. I.)

8. 天水田稲

天水田稲 Rainfed lowland rice とは、雨季に限って栽培される稲作です。畦畔を設け、降雨を水田に溜め、それを保持して行われる、雨季栽培の稲です。これは、次回説明する陸稲栽培と同じように、降雨依存型の稲栽培です。通常そこには、伝統的な在来品種か、あるいは天水田用に育種された近代品種が栽培されています。天水田稲による世界の平均収量は約 2t/ha です (Rice Almanac, 2013)。山間の谷間から丘陵地までいろいろな場所に展開されている天水田に、稲が作付けされます。ここでは、直播栽培と移植栽培の両方があります。



写真 8-1 西アフリカ・ベナンの天水田稲

この天水田稲栽培は、さらに、①比較的好適地、②乾燥しやすい場所、③冠水しやすい場所、④冠水も乾燥も共にしやすい場所、の4つに分けられます。通常、年1作の稲栽培になりますが、例えば稲と豆や、稲と野菜など他作物との輪作を行っています。世界全体で 5400 万 ha あり、全稲作面積の約 3分の1 (34%)に当たります (Rice Almanac, 2013)。問題は、不意の大雨、干ばつ、冠水など天水田の水を制御することが難しいので、不安定な作柄になることです。また、①多様な病虫害の防除が必要である、②痩せた土壌での栽培になる、③水田雑草だけでなく畑雑草も防除対象となる、④いろいろな栽培環境のため適栽培法の確立・普及がむずかしい、などが依然として問題になっています。

写真にあるように、一見すると、灌漑水田のように見えますが、ここには灌漑水田なら水田の縁に沿って必ず見られるはずの用水路がありません。もちろん、排水路也没有。そのような意味で言うと、世界中で見られる棚田 Rice terrace では、通常用水路があり、灌漑水稲が栽培されている場合と、いわゆる天水田のままの場合によっては田越し灌漑をする場合もありますが、アジアやアフリカで見られる棚田は、天水田が主です。

今回は、陸稲についてお話しします。お楽しみに。